

多摩地域の在宅医療・介護・福祉・保健を支える

ふれあい通信



2022
6月号

たまふれあいクリニックが実践する ACP ～医療・ケアチームにできること～



Index

P2



ACP～医療・ケアチームにできること～

ACPの概要と当院医師のインタビュー、事例を紹介します。

P6

Topics たまふれあいの家 登戸新町が開設2周年を迎えました！

P7

訪問リハのリレーコラム vol.8 たまフレ!のおしごと その2

P8

スタッフ紹介 フジタがゆく! 理学療法士 藤垣 慎太郎さん



アドバンス・ケア・プランニング ACP

～医療・ケアチームにできること～



患者さんがどのような医療やケアを望んでいるか、近いご家族は把握されているでしょうか。患者さんとそのご家族が納得できる選択をされるために、医療・ケアチームとして何ができるのか、考えてみたいと思います。



ACPとは

アドバンス・ケア・プランニング (Advance Care Planning) とは、人生の最終段階にどのような医療やケアを望んでいるかについて、そのご家族や近い人、医療・ケアチームが話し合い、本人の意思決定を支援するプロセスです。一般の方になじみのあるものとなるように「人生会議」という愛称が付けられています。

誰でも命に関わる大きな病気やけがをする可能性があります。命の危険が迫った状態になると、約7割の人が医療やケアなどを自分で決めたり、望みを人に伝えたりすることができなくなるといわれています。もしもそのような状態になったとき、ご家族などの信頼できる周囲の人が、本人に代わり医療・ケアチームと話し合いをすることになります。信頼できる人と話し合いを重ねておくことで、本人にとって最善の方針を選ぶことができます。



話し合うプロセスが大切

ACPは話し合いのプロセスを通して、患者さんの価値観を理解することが大切です。話し合う内容は、患者さん本人の気掛かりや意向をはじめ価値観、目標、病状や予後の理解、治療や療養に関する意向や提供内容などが挙げられます。ACPにより、患者さんの自己コントロール感が高まり、患者さんの意向が尊重されたケアが実践されるため、患者さんご家族などの満足感が向上することにつながります。

その時期が近づいたら、治療・ケアの方針を患者さんご家族・医療者で確認し、身体の苦痛や身体以外の苦痛を評価します。患者さんご家族の病状認識を確認し、それぞれの思いに配慮した声掛けと、ご家族の疲労や健康状態にも配慮することが必要です。



話し合いの進め方の一例

あなたが大切にしていることは何ですか？

あなたが信頼できる人は誰ですか？

信頼できる人や医療・ケアチームと話し合いましたか？

話し合いの結果を大切な人たちに伝えて共有しましたか？

心身の状態に応じて意思は変化することがあるため、何度でも繰り返し考え、話し合しましょう

杉浦医師からの 事例紹介

2

口の中の腫瘍で食事が摂れず、 胃ろうにしていた患者さんのケース

口の中が腫瘍でいっぱいになり窒息する状態悪化が見込まれていました。本人にこれからの変化について説明しなければいけません、腫瘍によって話しづらい、聞きづらい状態で、伝えること、理解していただくことに相当の時間を要しましたし、痛み止めのコントロールも難しい患者さんでした。もともと手術を担当した医師と相談して、「今ならぎりぎり気管切開できる」というタイミングで手術をすることができました。窒息リスクは回避できて、最期を自宅で迎えられました。



杉浦医師より

緩和医療に全人的苦痛（トータルペイン）という概念があります。患者さんの苦痛を身体的要因、心理的要因、社会的要因、スピリチュアルな要因といった多方面から捉える概念です。これは全ての医療に通ずるものだと考えています。本人の尊厳一つひとつを受け止めて、私たちにできることを選択する姿勢が大切だと思います。

3

患者さん本人は希望を言わず、 全てご家族が決めてしまうケース

患者さんのご主人が全てを決めていたので、ご夫婦の関係性で患者さん本人が意思を主張できないのかもしれないと思い、お一人の時間にお話を聞きましたが、夫の言う通りで構わないとのお考えでした。しかし、他の専門職の訪問時に別の事情が聞けたことで話し合いをすることができました。ケアチームが同じフロアにいるため、その都度、患者さんの状況を聞けるというよい例です。連携があるからできることでしょう。最期の治療の意思決定は多職種がそれぞれの立場で聞いてくることも大事で、ご家族がいるときとそうでないとき、ふとした瞬間に垣間見ることが家庭の人間関係など、ケアチームの気付く力の大切さを感じました。

1

独居でご家族の協力が得られない がん末期の患者さんのケース

死を見据えて、というよりも、できる限り長く自力で生きたいと望まれていました。栄養一つとっても、カロリーが高いものを希望されて、高カロリーを摂る必要がない状態だとお伝えしても、結局、高カロリーが欲しいという意味は変わりません。病状を診ながら、理解を得られるまで話し合う時間が必要になります。また、お看取りの場については自宅を希望されていても、お気持ちの変化に対応できるように緩和ケア病棟にエントリーだけはしておきます。



インタビュー

すぎうら

たまふれあいクリニック 医師

杉浦ちとせ氏

経歴

杏林大学医学部卒業。杏林大学医学部付属病院 第1内科入局。賛育会病院 緩和ケア科、一般診療所での経験を経て訪問診療へ。

ACPで大切なことは

生き方の柱に気付くこと

日本人は諸外国に比べて死と向き合うことを封印して生活してきた傾向があります。例えば、抗がん剤治療でがんと闘うことについては突き詰めて考え、患者さんも精いっぱいがんばろうとしますが、がんばることにこだわって緩和ケアに行く」ということを患者さん自らが選択することはあまりなく、抗がん剤治療を行う医師が「これ以上は難しいから」と判断するケースが多いと思います。また、患者さんの意識がないと、最期をどう迎えるかはご家族の判断になります。人はいろいろな価値観を持って生きてるので、最期をどう迎えるかは、その人の生き方の柱に気付くことが大事だと思います。

これは私見ですが、ACPという概念が認識されるようになり、皆がACPを知っているけれどその意義はどこかばやけたものになっている気がします。ACPとは、個人の死生観を皆で支えることです。医療従事者にとっては当たり前のことであり、私も日々そのように意識してお看取りの仕事をしています。けれども、わが家の犬の死に直面

し、私自身も本当にあたたかした経験があります。長年、お看取りの仕事をしてきた私でさえです。はっとさせられました。

ACPへの取り組みとは

相手に敬意を払うということ

一方で、どのようにACPに取り組みかを定義するのはとても難しいことだと思います。全てに通ずる手法というよりも、それぞれパーソナルな事例だからです。話し合いの進め方として厚生労働省が例示しているように、プロセスを踏んで考え続けることは、医療者にも、本人にも、ご家族にとっても難しいことだと思います。

例えば子どもがいて、自宅で母親としての役割を最期までやりたいという希望を支えることも一つのACPです。ACPはその人の思いを区分けして整理するものではなく、一つひとつの思いに寄り添っていくものです。これを言葉で表すとすれば、死生観と呼ばれるものだとは私は捉えています。私自身も患者さんと同じ一人の人間で、いつかは死ぬ存在です。患者さんを看取るたびに、人間として敬意を払うこと、そこから何か学ばせていた

だくというスタンスを持って向き合っています。

各専門職がワンフロアにそろう

在宅医療の理想形

私はかつて緩和ケア病棟に4年勤務した後、在宅ホスピスを経験しました。出産・育児のプランクを経て、大学病院の緩和ケアチームで新しい緩和医療を学ばせていただきました。たまふれあいクリニックに入職した理由は、今の在宅医療を知りたかったことと、ここはワンフロアにリハビリ職員や薬剤師、ケアマネジャーなど各専門職がいて、何でもすぐ相談に乗ってもらえること、顔が見える関係性でケアが行えるということに魅力を感じたからです。

自分が往診に行く日以外の日に、リハビリ職員やケアマネジャーが患者さんを訪問するので、気掛かりな患者さんの情報収集がしやすい理想的な組織形態だと思います。ケアチームから患者さんの日々の変化を知ることができる環境にいることは、とても貴重です。

患者さんの死生観に寄り添い、意思決定をチームでサポート
たまふれあいクリニックの在宅医療は、医師、看護師、リハビリ職員、相談員など、専門職が同じ法人グループの本部で席を並べています。その中で、医師として在宅医療を実践する杉浦氏に、ACPについてお話を伺いました。

訪問リハの リレーコラム

vol.8

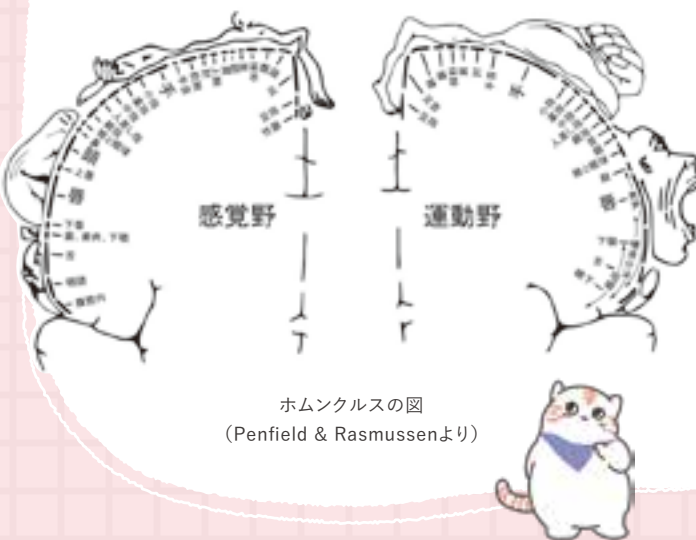
手指を使うことが 認知症予防につながる

作業療法士 榛葉 寛



人間にとって手は非常に重要であり、「第2の脳」ともいわれています。左図は、ホムンクルスの図と呼ばれ、脳が体のどの部位とつながっているか描かれたものです。私たちの手は非常に小さな器官ですが、5本の指と手のひらで、脳の運動野（運動をつかさどる部位）の3分の1、感覚野の4分の1も占めています。手の細かな運動は、このように脳の広い領域の制御により実現しているのです。

手や指を使うことは認知症予防としても注目されており、手を使うときは、使わないときに比べて、脳の血流量がおよそ10%上がるとされています。手を使わないことで、身体機能だけでなく認知機能の低下にもつながるので、病気であっても、何歳であっても、毎日手を使って健康を保ちましょう。



ホムンクルスの図
(Penfield & Rasmussenより)

たまフレ！ のおしごと

その2

相談支援のポイント は 地域連携にあり

たまフレ！のご利用者の中心は20代から30代の若い世代で、学校などを卒業し、就労も安定してきたので、次のステップとして自立を目指す方が多くいらっしゃいます。そこで自身で決めた場所での暮らしができるように相談支援専門員がサポートしています。

自宅から出て地域で生活する場合、ごみの出し方やテレビ、電話や音のマナーなど、さまざまなルールを覚える必要があります。たまフレ！でこれらを身に付け、さらに宿泊訓練にもチャレンジできます。就労移行支援や就労継続支援B型のご利用者は、たまフレ！から徒歩2分ほどの場所にある、心や身体に障がいのある方が利用する「サポートセンターロンド」内の短期入所用の施設を利用していただきます。ワンルームタイプの部屋で宿泊をして食事、入浴などの訓練ができます。その結果、自宅から共同生活援助（障がい者グループホーム）へ独立できたご利用者も数名います。

ご利用者が独立したあとも、相談支援専門員が地域住民と積極的にコミュニケーション

Information

NPO法人療育ねっとわーく川崎 サポートセンターロンド

川崎市多摩区登戸2981(たまフレ！から徒歩2、3分)



代表の谷みどりさん

谷さんが
ご利用者をあたたかく
迎えてくださいます。

を取ることで私たちの仕事を理解してもらい、ご利用者のサポーターになってもらうことで地域連携につながります。「たまフレ！の利用者さんだったら大丈夫！」と言っているだけのように、小まめに地域に顔を出し、畑で野菜を運んだりしていますので、見かけたらやさしく声を掛けていただければ幸いです。

たまフレ！管理者
飯干 順正



Topics

たまふれあいの家 登戸新町が 開設2周年を迎えました！

2020年6月1日
たまふれあいの家
登戸新町が開設しました。

Start!



静かな住宅街にある3階建ての施設です。定員は1ユニット9名×3ユニットの計27名。本来グループホームでは受け入れが難しい医療依存度が高い方も対応可能であることが強みです。

「たまふれあいの家 登戸新町」は、医療法人が開設する医療・看取り対応型の認知症対応型通所介護として、たくさんのお問い合わせをいただく中でオープンすることができました。コロナ禍でのスタートでしたが、皆様のおかげで無事に2周年を迎えることができました！

2022年1月
お正月イベント開催！



グループホームの中に神社を手作りして、ご利用者に参拝していただきました。

2020年9月
敬老の日お祝いイベント
開催！



敬老の日のプレゼント、ハーバリウムを手作りしました。



Goal!

2022年6月
2周年を迎えました。

地域との交流をテーマにたくさんのイベントを予定していましたが、感染を避けるために人が集まるイベントではなくご利用者に喜んでいただける工夫をしました。次の3周年に向けて、楽しくお過ごしいただける工夫を続けていきたいと思っています。

たまふれあいの家 登戸新町
管理者 井辻 雅貴

今年の節分は
鬼になって各ユニットを
回りました！



普段は屋上の
花壇で、皆でお花を
育てています。



たまふれあいグループ サービスの空き状況 (2022年6月1日現在)

記号の見方 ◎十分空きあり ○空きあり △残りわずか ▲要相談(待機者少ない) ×空きなし

訪問診療	訪問看護	訪問リハビリ			居宅介護支援事業所	たまふれあいの家				たまフレ！			
		PT	OT	ST		デイサービス	看多機	グループホーム 枳形	グループホーム 登戸新町	障害者計画相談支援	障害者就労継続支援B型	障害者就労移行支援	自立訓練(生活訓練)
◎	△	○	○	◎	○	◎	○	▲	▲	▲	◎	◎	○

多様な症状・
医療処置対応

胃・腸ろう／経鼻胃管／気管切開／
喀痰吸引／TPN管理／パルン・ストマ／
重度褥瘡／呼吸器管理 ほか

地域相談室直通電話番号

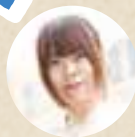
044-931-0220

ご相談・お問い合わせ
いつでもお待ち
しております

全力相談員 フジタによるスタッフ紹介

フジタがゆく!

地域相談室 相談員 藤田 杏



こんにちは! 相談員のフジタです♡

さて、今回はリハビリテーション科に所属している理学療法士の藤垣にインタビューしました!

藤垣は、神奈川県相模原市出身で、生まれも育ちも神奈川県という生粋の神奈川県民とのこと。訪問リハビリの世界に飛び込む前は、回復期リハビリテーション病院に4年半勤務していたとのことですが、今となっては、訪問リハビリ歴の方が長くなってきているようですΣ(・ω・ノ)!

そんな藤垣に、自身の仕事のスタイルを聞いたところ「On/Offの切り替えを大事に!!NO残業です!!(笑)」と勢いよく語り、日頃からご利用者の笑顔を引き出すことが得意な一面を垣間見ることができました(笑)。また、プライベートでは、キャンプ、ベランピング、海外旅行が趣味だったようですが、最近では、3歳の娘さんと朝から公園のハシゴやコストコに日用品の買い出しへ行くことが多いようです!

「ご存じの方も多くいらっしゃると思いますが、訪問リハビリは、ご自宅や施設(サービス付き高齢者向け住宅や有料老人ホームなど)に訪問し、身体機能面やADLへのアプローチ、福祉用具導入による環境調整やご家族への介助指導など、ご本人・ご家族のHOPEを尊重して、安全で充実した在宅生活を送れるようにサポートさせていただくものです!ご本人・ご家族へ徹底的に寄り添ったリハビリを大切にしています!」と語る藤垣が、皆様からのご相談をお待ちしております♡

インタビューした人

ご本人のHOPEを尊重し、徹底的に寄り添ったリハビリをリハビリテーション科理学療法士

ふじがき

しんたろう

藤垣 慎太郎さん



日々、ご本人・ご家族との関わりを通して、しっかりと寄り添うことのできるリハビリを提供します!



ベランピングでステーキを焼きました♪

ハワイ旅行でバチリ。でも最近は海外旅行に行けていない…。



娘は3歳になりました!



フジタの部屋



昨年より世界ソーシャルワークデーを意識してZoomの背景を、こちらに設定しております!今年のテーマの中にある「置き去り」という言葉の深さを、改めて考えさせられる機会になりました。



東北人 フジタのつぶやき

今年も ✨
ソーシャルワークについて
みっちと考えます!

訳: みっち=しっかり



たまふれあいグループ
Tama Fureai Group



たまふれあいクリニック
Tama Fureai Clinic



たまふれあい
訪問看護ステーション



たまふれあいの家
Tama Fureai Home



たまふれあい
居宅介護支援事業所



たまふれ!
Tama Fureai!



たまふれあいの療
Tama Fureai Home



044-931-0220

〒214-0014 神奈川県川崎市多摩区登戸1763
ライフガーデン向ヶ丘2F

ふれあい通信は、地域相談室のメンバーがつくる「地域とつながる」会報誌です